

# シークレット・サンシャイン(密陽)

2008(平成20)年4月7日鑑賞(東宝東和試写室)

★★★★★



監督・脚本・製作＝イ・チャンドン／出演＝チョン・ドヨン／ソン・ガンホ／チョ・ヨンジン／キム・ヨンジェ／ソン・ジョンヨプ／ソン・ミリム／キム・ミヒャン／イ・ユンヒ／キム・ジョンス／キム・ミギョン／オ・マンソク (エスピーオー配給／2007年韓国映画／142分)

……まずは、3作目の『オアシス』(02年)でムン・ソリの、4作目の『シークレット・サンシャイン』でチョン・ドヨンのすばらしい演技を引き出したイ・チャンドン監督に拍手！ 次に、カンヌで最優秀主演女優賞を受賞したチョン・ドヨンの熱演をじっくりと！ <sup>ミリャン</sup>密陽とは？ 韓国におけるキリスト教徒の率は？ そんな勉強の上に「汝の敵を愛せよ」の教えについて、深く考えてみたいものだ。しかし、静かで意味シンなラストシーンを迎えた時、あなたの採点は……？

## まずは、数多くの受賞おめでとう！

この映画で主演したチョン・ドヨンは、2007年の第60回カンヌ国際映画祭で最優秀主演女優賞を受賞した。カンヌでのアジア女優の受賞は『クリーン』(04年)でのマギー・チャンの受賞に続く2人目となる快挙だからすごいもの。また彼女は、2007年の青龍映画賞で主演女優賞を、2007年の大鐘賞映画祭で特別賞を受賞した。

さらにチームとしては、2007年の第6回大韓民国映画大賞では作品賞・監督賞・主演男優賞・主演女優賞受賞の4冠を受賞。さらに、アジアのアカデミー賞と評されるアジア・フィルム・アワード2008では、<sup>アン・リー</sup>李安監督の『ラスト、コーション(色、戒／LUST, CAUTION)』(07年)を抑えて、作品賞・監督賞・主演女優賞の3冠を達成したというからすごい。まずは数多くの受賞おめでとう！ 日本での08年6月からの公開に期待したいものだ。

## 🎬 『ユア・マイ・サンシャイン』に続くチョン・ドヨンの演技力に感心！

『スキャンダル』(04年)では処女のまま固く貞節を守って生きている女性チョン・ヒョン役を演じたチョン・ドヨン<sup>ノムヒョン</sup>を、私は「木村佳乃に似たチョン・ヒョンさん、ちょっとかわいそう……？」と評論した(『シネマルーム4』192頁参照)。また、HIV患者のヒロインを熱演した『ユア・マイ・サンシャイン』(05年)におけるチョン・ドヨンの演技はすばらしく、「これで泣けなかったら、あなたの感性はちょっと心配……？」と評論した(『シネマルーム11』257頁参照)。

そんな、韓国を代表する演技派女優がチョン・ドヨン。イ・チャンドン監督は、5年ぶりに現場復帰して監督した『シークレット・サンシャイン』(07年)でそんなチョン・ドヨンを起用し、「ここまでやらせるか!」「ここまでやるか!」という彼女の迫真の演技を引き出した。したがって、カンヌ国際映画祭におけるチョン・ドヨンの快挙は、ある意味当然……。

## 🎬 『オアシス』 vs. 『シークレット・サンシャイン』

イ・チャンドン監督の3作目『オアシス』(02年)はすごい傑作だった(『シネマルーム7』177頁参照)が、そこで脳性麻痺の女ハン・コンジュを演じたのが、現在『太王四神記』(07年)のキハ役で大活躍している名女優ムン・ソリ。

そして、イ・チャンドン監督の4作目『シークレット・サンシャイン』で、息子を誘拐され精神錯乱状態に陥っていく母親イ・シネ役を熱演しているのが、前述のようにイ・ジェヨン監督の『スキャンダル』、パク・チンピョ監督の『ユア・マイ・サンシャイン』に続いて出演したチョン・ドヨン。

韓国を代表するこの2人の演技派女優の熱演ぶりを、イ・チャンドン監督の3作目と4作目で見比べることができるのは、最高の贅沢……？

## 🎬 『オアシス』から5年の空白期間はなぜ？

イ・チャンドン監督の3作目の最高傑作『オアシス』から4作目の『シークレット・サンシャイン』までには5年間の空白期間がある。映画界から一時身を引いた彼は、一体何をやっていたの……？ 彼は2003年から盧武鉉政権下で文化観光部長官(大臣)を務めていたというからビックリ。日本でも国会議員ではない民間人が大臣

に就任することは時々あるが、それは韓国でも同じようだ。

「386世代」（1990年代に30代で、1980年代に大学生で学生運動に参加し、1960年代の生まれ）を支持基盤とする盧武鉉政権ノムヒョンの誕生は、2003年2月のこと。これによって従来続いてきた「三金政治」（金大中、金泳三、金鍾泌）が終わり、民主化された韓国の新しい時代を切り拓くものと期待されたが、08年4月現在の評価はボロボロ。しかし、2003年2月から2008年2月までの盧武鉉政権ノムヒョン下で、イ・チャンドン監督が文化観光部長官として実行したのは、①18歳未満入場禁止、②制限付きの映画、③日本語で歌われた歌謡アルバム、④家庭用ビデオゲーム機などに対して一部残されていた開放制限措置をすべて解除するという韓国の第4次大衆文化開放政策。

イ・チャンドン監督の文化観光部長官就任は、日本で言えば、世界のキタノこと北野武監督が文部科学大臣に就任するようなものだが、さて北野監督は要請があれば受けるのだろうか？ 外野席からいろいろ批評するのは簡単だが、いざ責任者として政策を立案、実現しようとする、08年2月に大阪府知事に就任した橋下徹弁護士と同じように大変なこと……？

### ミリヤン 密陽はどこに？

この映画の邦題『シークレット・サンシャイン』は、原題『密陽』ミリヤンをそのまま英語に移しかえたものだから、本来何の意味もないもの……？ 密陽ミリヤンは韓国東南部の慶尚南道にある地方都市の名前。

ちなみに、07年12月19日の大統領選挙によって、大統領は開かれたウリ党ノムヒョンの盧武鉉からハンナラ党イ・ミョンバクの李明博に移行し、その後08年4月9日に実施された総選挙（定数299）で、与党ハンナラ党が153議席で過半数を獲得した。朝鮮半島西南部の全羅南道（ここに『光州5・18』（07年）で観た光州がある）や全羅北道が野党・統合民主党の地盤であるのに対し、朝鮮半島東南部の慶尚南道は慶尚北道と並んで圧倒的に保守・ハンナラ党の地盤。そんな保守色の強い、亡き夫の故郷である密陽へ6歳の息子ジュン（ソン・ジョンヨブ）と共にシングルマザーのイ・シネ（チョン・ドヨン）が移り住んでいくところから、この映画の物語は始まる。

### ミリヤン 密陽の意味は？

密陽とは、読んで字の如く「秘密の陽射し」。映画の冒頭、車の故障で立ち往生し

ていたシネと、それを助けにきた自動車修理工場社長キム・ジョンチャン（ソン・ガンホ）との間で交わされる、少しすれ違い気味の会話が面白い。それは、「ミリャン（密陽）の意味を知ってますか？」「意味？ 考えたこともないね」「秘密の密に、陽射しの陽。秘密の陽射しなんて素敵でしょう？」「秘密の陽射しか……。いいね」というもの。この会話が、この映画の出発点だ。

そして、この「秘密の陽射し」が物語展開上節々のキーワードとなる他、静かで美しいラストシーンにも通じることになるから、要注意！

## シネの新生活は……？

密陽でシネが始めたのは、子供相手のピアノ教室。自宅をかねたピアノ教室を商店街で開いたシネは、①近所の洋服店の女主人（キム・ミギョン）、②薬局を営むキム執事（キム・ミヒャン）、③息子のジュンが通う弁論教室の先生パク・ドソプ（チョ・ヨンジン）などと知り合い、少しずつ密陽のまちとそこで生活する人々に馴れ親しんでいった。最初にシネを密陽に案内した30代の独身男ジョンチャンは、なぜかそんなシネに惹かれたようで、仕事そっちのけでシネの世話を焼いていた。しかし、今でも亡くなった夫を愛し、夫の故郷密陽でジュンと共に立派に生きていこうと決心しているシネには、そんなジョンチャンはうとうとしいだけの存在……？

そうは言っても、見ず知らずの土地で立派に生きていこうとしたシネが少し気張りが過ぎていたのは事実。つまり、密陽の人たちから変な憐れみや同情を受けるのはゴメンと考えたシネは、「いい投資物件はありませんか？」などと聞いたりして、いかにも自分が資産家であるかのように振る舞っていたわけだ。そんな同情をはねのけようとしたためのハッタリ（？）が、身代金目的の誘拐事件を招こうとは……？

## 誘拐事件にみるチョン・ドヨンの演技力は？

商店街の中で子ども向けのピアノ教室を開く以上、近所づき合いは大切。それは保守的な色彩が強い密陽ではなおさらだ。そんなわけで、今夜シネは近所のおばさんたちとカラオケをタップリと。みんなを先にタクシーに乗せ、自分はゆっくり歩いて帰ると、眠っているはずのジュンの姿が見えない。「ジュン、どこにいるの？」「ふざけるのはやめなさい！」と言っている時、かかってきた電話は……？

黒澤明監督の『天国と地獄』（63年）は誘拐事件を描いた名作だが、『シークレッ

ト・サンシャイン』では最愛の息子ジュンを誰が、何のために誘拐？ 金の要求をしてくるところをみると、未亡人のシネが大金をもっていると知ってる（思い込んでいる）人間？ しかし、そんなことを知っている人はごく少ないはず……？

①犯人からの電話に翻弄されるシネ、②要求どおり、ありったけのお金を集めて犯人の指示どおりの場所にそれを届けるシネ、③死体発見の報に途方に暮れるシネ、④焼き場で泣き崩れるシネ、⑤夫の母親たちから罵られながら涙も枯れてしまったシネ、そして、⑥葬儀、犯人の逮捕、裁判などすべてが終わり、少しずつ精神を病んでいくシネ。そんなシネを演ずる、チョン・ドヨンの神がかり的な演技をタップリと堪能しよう。

### 密陽の方言は相当きつい……？

この映画の1つの主役は密陽という都市そのものだが、実はもう1つ、密陽のかなりきついという方言も主役……？ 亡き夫の故郷へ妻が子供を連れて移り住むというパターンはあまり例がないだけに、人口約11万人の地方都市に住むジョンチャンをはじめとする住人たちは、シネを喜んで迎えてくれたよう。

プレスシートによると、この映画には主演級以外の俳優たちは、助演俳優オーディションで選ばれた映画初出演の演劇人や全くの素人たちとのこと。イ・チャンドン監督がなぜそんなムチャな方針(?)をたてたのかというと、それは密陽の方言を完璧にしゃべってもらう必要があったため。したがって、この映画がたくさんの賞を受賞したのは、そんな方言まで完璧に配慮した効果もあったのだろう。しかし残念ながら、字幕を読んでいるだけの私たち日本人には、そこまでの理解はムリ。

### 何と26%がキリスト教信者！

私が何かのたびに強調しているのは、韓国は仏教の国でも儒教の国でもなく、キリスト教の国だということ。もっとも、韓国では仏教信者は人口の20%を超えているというから、神と仏をあわせて拝むいい加減な日本の宗教観に比べれば、よほど仏教国。ところが、キリスト教信者はプロテスタントとカソリックを合わせて全人口の26%を占めるというから驚き。この映画の中盤は、愛する息子ジュンを失ったシネがキム執事から勧められて入ったあるキリスト教団によって心の安らぎを回復し救われていく姿を描いていく。この映画は2時間22分と長いですが、それはこの教団をめぐる

中盤の物語のウエイトが大きい。ちなみに、なぜシネが教団に惹かれたのかについては、面白い「密陽」のシーンがあるので注目！ 神を信じるキム執事の言葉によれば、薬局のある場所に当たっている陽射しも「神の御心」なのだが、信仰心のないシネにとってそれは「ただの光」。そんなシネだったのに、ある日ふらりと入った近くの教会の中で賛美歌を歌う多くの人たちの姿を目の当たりに見る中で不思議な安らぎを覚えたのは一体なぜ……？ そして、シネが見事に教団の闘士(?)に変身していったのは一体なぜ……？ そんなシネの変身ぶりをチョン・ドヨン演技でしっかり確認するとともに、シネを生き返らせることになったキリスト教の教えについても、この際じっくりと考えてみたいものだ。

### 「汝の敵を愛せよ」の教えの実践は……？

キリスト教のキーワードは愛。そして、最もその実践が難しい教えは、「汝の敵を赦し、汝の敵を愛せよ」というものだ。ところが、今や教団のエースに成長した(?)シネが、その教えを実行しようとしたから大変。つまり、シネはジュンを誘拐し殺害したため、今刑務所に入っている犯人に対して赦しを与えようと決心したわけだ。これには牧師(オ・マンソク)も少し心配気味だが、シネの決心が固いため、みんなを送り出すことに。それに付き添うのはキム執事たち。そして車の運転手役はジョンチャン。刑務所の面会室で無事犯人と面会することができたシネは、自信タップリかつ心安らかに「今日、私がここに来たのは、神の恩寵と愛を伝えるためです」と切り出したが……？

### 犯人の対応は……？

ジョンチャンはシネの付添人(?)としてシネの後ろに座っていたが、金網ガラス越しに見る犯人の顔がえらく元気そうで穏やかだったのが気になったのは当然。シネも同じように感じたようで、まずその第一声は「お元気そうですね」ということ。

しかして、シネの「汝の敵を赦し、愛せよ」の実践に対する犯人の答えは、「それは必要ありません。なぜなら私も入所後神を心に迎え、神によって赦されたからです」というものだったから、シネは啞然！ 一瞬その意味が理解できないほど、シネにはその言葉は衝撃的だった。私が赦す前に神はなぜ犯人をお赦しになったの……？ そんな現実をシネが到底受け入れられなかったのは当然だ。



© 2007 CINEMA SERVICE CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

刑務所から出た途端に気絶してしまったシネは、以降密陽に戻ってからも人が変わったように落ち込んでしまった。それまで信仰していた神ですら信用できなくなってしまったシネには、もはや頼るべきものが何もなく、1人自宅に引きこもったまま憔悴の日々を。そしてシネは次第に自暴自棄になり、あちこちで常軌を逸した行動(犯罪行為?)をとるようになったが、そんなシネをチョン・ドヨンがさらに熱演！

## 16歳の女の子チョンアが重要な役割を！

ジュンの誘拐犯人からの電話に翻弄されていたシネが、ある日、家の中をのぞき込んでいる不審な女の子をみつけて警察に通報したが、その16歳の女の子がチョンア(ソン・ミリム)。彼女は弁論教室の先生ドソプの娘だ。この映画では、このチョンアが出番は少ないものの重要な役割を果たしている所以要注意。

その1つは、チョンアが不良たちからいじめられている1シーン。シネは車の中からそれを発見し、1度そこにひき返すのだが、なぜか彼女を助けることなく、そのまま現場を離脱してしまったが、それは一体なぜ……？ また、ラスト直前にも印象的なシーンが登場する。それは、精神病院からやっと退院してきたシネをジョンチャンが出迎え、「髪をカットしたい」というシネの要請に応じて理髪店に案内すると、た

またまチョンアがシネの髪をカットする理容師として登場すること。こんな偶然はもちろん映画だからこそ起きることだが、そこから静かなラストに至る短い過程は秀逸。是非あなたの目でしっかりと味わってもらいたい。

## 🎬 静かで印象的なラストシーンは……？

プレスシートによると、この映画のラストシーンの撮影には大変苦勞したらしい。それは、タイトルどおり太陽の陽射しにあふれた密陽という都市で、秘密の陽射しをしっかりとカメラに収めようとしたため。人工照明を使えば、いくらでも合理的な撮影ができるのは当然だが、自然の太陽光をこのシーンのためにどこに、どれだけ集めてカメラに収めようと計算すれば、その撮影が大変なのは当然。

この映画のラストシーンの舞台は、シネの自宅兼ピアノ教室にある小さな裏庭。今やっとシネはジョンチャンに連れられて戻ってきたわけだが、その裏庭の草木にあたるのが秘密の陽射し。陽射しが最も美しい午後1時から2時までという限定された時間の中で、隠れている光をカメラにとらえようとしたスタッフたちの苦勞を考えながら、この静かで印象的なラストシーンをしっかりと味わいたいものだ。

2008(平成20)年4月15日記

### ミニコラム

#### 追記「シークレット・サンシャイン」

ハリウッドでも日本でも「原作モノ」が花盛りだが、私は基本的にそれに反対。やはり映画はオリジナルな企画・脚本で勝負、が基本。しかし、『シークレット・サンシャイン』のようなすばらしい映画を観ると、そんな価値観が大きく揺らいでくる。この映画の原作は「韓国現代小説の先駆者」と評価される李 清 俊イ・チョンジュン氏の『虫の物語』。彼の小説はこの他にも、『西便制』が『風の丘を越えて』という邦題

で映画化されているらしい。

なぜ、そんなことがわかったの？  
それは、彼が去る7月31日肺ガンのため68歳で死去したことを知ったため。原作がこんな立派な映画となり有名になれば、原作者はさぞうれいことだろう。日本の弁護士兼映画評論家が、この映画をここまで絶賛していることを何とか生前に伝えたかったものだ。李清俊氏への哀悼を込めて合掌。

2008(平成20)年8月6日